

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・児童の動線を生かした環境整備と授業の基本パターン定着を小まめに指導したことで、表現を楽しみながら粘り強く取り組もうとする児童が増えた。
- ・つくりたいイメージに近づけられるよう「考える」「試す」「変える」のサイクルを通した造形的な視点をもって取り組む児童が増えた。

(2) 課題

- ・全学年において、用具や道具の使い方などの基礎基本が十分に身に付いていない児童がいる。前学年での学びを次学年でも応用できるよう、知識・技能を確実に定着させていく必要がある。
- ・児童の主体的に学習に取り組む姿勢を、継続して高めていく必要がある。教師が準備し過ぎたり口や手を出し過ぎたりすることのないよう指導の加減を意識し、自発的な表現と自ら学ぶ姿勢・意識を引き出せるよう題材及び指導の工夫をしていく。

2 分析（観点別）

① 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・手で触れたことや目で見たことなどから思い付き、感覚的につくりることができる児童が多い。 ・描く、つくるなど基本的な作業は概ね行えるが、材料や用具の使用経験が乏しく、練習が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表したいことを思い付き、表現を楽しむことができる児童が多い。 ・生活経験が少なく、同じような発想やイメージになりがちであり、表現が拡がりにくい傾向がある。 ・友達と作品を見せ合って比べることで自分の表現を見直し、工夫を加えようとする児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しみながら活動できる児童が多い。 ・造形遊びや鑑賞の活動を通して、友達と楽しく関わろうとする児童が多い。 ・周りへの注意意識が希薄である児童や、コミュニケーションが苦手である児童への支援が必要である。

② 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・表現の工夫を考えながら表そうとする児童が多い。 ・造形遊びの経験が乏しく、活動に慣れていない児童が多い。 ・技能を確実に身に付けるための練習時間が足りない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が楽しいと感じたことや面白いと感じたことをイメージし、自由に発想できる児童が多い。 ・思い付きだけで満足してしまい、自分の考えや思いを深めたり広げたりすることを苦手とする児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・つくることへの意欲をもって取り組める児童が多い。 ・忘れ物が多く、活動時間への意識が乏しいなど、授業規律の定着が難しい児童が目立つ。 ・学習課題に集中するのが難しい児童が見られる。

③ 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・空間や奥行きを意識することや、自分のイメージを表すための工夫を試みることができるが、完成度が上がらない児童への支援が必要である。 ・基本的な道具の使用経験はあるものの、応用や活用には至らない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの経験を生かして道具や材料を使い分けたり、自分に合った表現方法を選んで表わそうとしたりすることの難しい児童が多い。 ・つくる行為そのものに熱中してしまい、造形的な視点や感じ方を意識することが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に取り組み、制作活動に興味や関心をもつことができる児童が多い。 ・未提出物や忘れ物が目立つ。 ・人と比較しすぎて自分の表現に自信がもてなくなり、意欲を高めにくい児童がいる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 練習と声かけを繰り返しながら、細やかに個別指導を入れていくことで、用具や用法など、基礎基本の確実な習得を図る。 活動が円滑に進むよう、児童の動線や扱いやすさを意識した学習環境を整備する。 造形遊びの機会を意識して設け、活動を通して素材体験と造形感覚を培う。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のイメージを具体化させるため、ワークシートやタブレットで記録をとらせ、振り返りが容易にできるようにさせる。 自分や友達作品を見合わせることで見方や感じ方を広げていけるよう、鑑賞や発表場面を多く取り入れていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な学習規律を確立させていくため、担任・支援員との連携を図る。 手と体を使った活動と素材体験を意識し、造形遊びの時間を多く設ける。 つまづき経験の減少をねらい、スモールステップに分けた学習を取り入れていく。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 技術練習時間の増加及び個別指導を入れることで安全かつ正しい道具の扱い方を習得させていく。 日常的に絵や立体などの造形に触れる場面を設け、様々な造形的表現を知る機会を増やす。 造形遊びの機会を意識して設け、活動を通して素材体験と造形感覚を培う。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のイメージを具体化させるため、ワークシートやタブレットで記録をとらせていく。 思考を試したり、つくり変えたりする活動を意識的に設け、思い付きに留まらず表現を追求していけるような活動の流れを取り入れていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の意欲を認め、自らすすんで取り組めるよう、根気良く見守る態勢を心掛ける。 活動に集中できる環境づくりのため、個々の作業スペースを十分に確保する。 基本的な学習規律を確立させていくため、担任・支援員との連携を図る。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> これまで身に付けた知識や技能を制作に取り入れさせたり、自ら情報収集できるように、タブレットや本、図版や掲示などを活用させたりしていく。 これまで身に付けた技能や知識及び自分のアイデアを生かせるよう、既習事項の資料を活用し、常に確認しやすく示していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のイメージを具体化させるため、ワークシートやタブレットで記録をとらせていく。 作品をつくる動機やねらいを明確にさせ、自己の思考や判断が必然的に行われるような題材を設定する。 思考を試し、つくり変えていく活動を児童に強く意識させ、振り返りながら表現を追求していけるような制作の流れとその定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 自らの表現を選択決定できるような題材設定を行う。 自分の表現に集中させて、活動の流れを止めないよう、声かけの頻度削減など、根気良い見守りと必要最低限な支援を行う。 活動に集中できる環境づくりのため、個々の作業スペースを確保する。